

# 樺太ろう歴史「樺太豊原盲啞学校」中間報告

日本歴史学会発表資料

1999/11/13

道産子歴史チームメンバー：竹内かおり、川和早苗、佐沢静枝、水越靖子、福光あずさ  
ご協力者：吉田実、村川健雄（川和さんの父）、平沼正一郎

## 1、目的

<北海道生まれとして地元の歴史の中のろう者の動きの調査を通して改めて私達に人間としての生き方を考える場を作る。>  
北海道に住んでいながら樺太にろう学校があったという真実をしっている人は少なく、樺太のろう学校の研究の探究、当時の人の体験話を伺うことによってその時代の背景を知り、現在の我々ろう者は何をすべきか改めて見つめる機会を作っていきたい。

## 2、樺太について基礎的な知識

### ◆地誌的には

樺太は大分して北樺太と南樺太に分けられる。北端のエリザベト岬は北緯54度30分  
南端の西能登呂岬は北緯45度54分面積は770平方キロあり、北海道（784平方キロ）のほぼ同じ大きさ。  
島としては世界で21番目の面積を持つ。南北の長さ1040km東西の最大幅157km。

### ◆樺太歴史

1853年	永6年	6月	国交を求めてアメリカのペリーが浦賀に来日（鎖国やぶれる）
		7月18日	ロシア使節プチャーチンが軍艦4隻を率いて長崎に来航
		8月19日	ロシア使節プチャーチンが長崎奉行・大沢豊後守に国書を提出して国交と樺太・千島における国境画定を求めた。ロシア側は「樺太はあくまでロシア領」と主張。日本側の「樺太は古来から日本領だが現状から見て北緯50度の線を境界とする事が妥当である。」という主張と対立
1854年	安政元年	2月7日	ロシア全権プチャーチンと日本側全権の幕府・応接掛、筒井政憲、川路聖謨との間で日露和親条約として調印した。樺太は境界を設けず従来の仕来り通りとする（雑居）。千島は択捉島以南が日本領、得撫島以北がロシア領と定められた。
1869年	明治2年	8月	蝦夷地を北海道、北蝦夷地を樺太と改称
1875年	明治8年	5月7日	クリル（千島）・千島樺太交換条約調印 発足まもない明治政府は日露雑居だった樺太を放棄し、クリル群島（中・北千島）と交換した。
1897年	明治24年		侍従片岡利和、勅命で千島を巡視、択捉で越冬、翌年占守島と幌筈島を調査
1893年	明治26年	8月31日	郡司成忠らの報効義会会員、占守島に上陸
1904年	明治37年	2月10日	日露戦争始まる
		7月7日	第13師団、樺太に上陸。7月31日に全島占領
1905年	明治38年	9月1日	日露休戦議定書調印
		9月5日	日露講和条約、ポーツマスで調印、北緯50度以南の南樺太日本領に。
1911年	明治44年	7月7日	日米英露4カ国オットセイ保護条約に調印
1917年	大正6年	11月7日	ロシアにソビエト政権樹立
1918年	大正7年	8月2日	日本軍、シベリアにいるチェコ軍救出の為出兵
1920年	大正9年	5月25日	シベリアで、日本居留民、パルチザンによって虐殺される（尼港事件）
		7月3日	日本政府、北樺太占領を宣言
1923年	大正12年	5月1日	稚内一大泊間の国鉄稚泊連絡船運行開始
1925年	大正14年	1月20日	日ソ基本条約調印、ポーツマス条約をソ連追認
1944年	昭和7年		（村川健雄、樺太豊原にて生まれる。）
1941年	昭和16年	4月13日	日本とソ連は5年間有効を持った「日ソ中立条約」が成立、中立を守った。
1943年	昭和18年	4月1日	樺太を内地に編入
1944年	昭和19年		（村川健雄、北海道に逃げた。）
1945年	昭和20年	2/4~2/11	ヤルタで開かれたルーズベスト（米）チャーチル（英）スターリン（ソ）による米英ソ三国の首脳会談で「クリル列島と南樺太をソ連のものとする」という密約を交わした。（1941年に作った日ソ中立条約に反するものであった。）
1945年	昭和20年	4月5日	日本の敗色（第2次世界大戦）が濃厚になり、ソ連の方から一方的に日ソ中立条約の不延長を通告してきた。（その時点ではまだ1年間の条約期間があった。）
1945年	昭和20年	8月8日	米が広島に原爆を投下した2日後、ソ連対日宣戦、中立条約残存期間中にも関わらず、満州と樺太に侵入した。（当時南樺太は45万人の日本人が在住）

		8月10日	日本、ポツダム宣言受諾を通知
		8月15日	日本、終戦の詔書発布
		8月18日	ソ連軍、千島の占守島に侵入開始
		9月 2日	ソ連軍、国後島に上陸
1946年	昭和21年	2月 2日	ソ連、「南樺太と千島の領有」を一方向的に宣言
1951年	昭和26年	9月 8日	日本と連合国の講和条約調印、ソ連は欠席
1956年	昭和31年	9/11・9/29	領土問題継続協議の日ソ往復書簡
		10月19日	日ソ共同宣言に調印、日ソ国交回復
1963年	昭和38年	6月10日	貝殻島周辺における昆布採取の民間協定、日ソ間で、調印
1991年	平成3年	4月18日	来日したゴルバチョフ・ソ連大統領と海部俊樹首相の間で共同声明。 「平和条約が領土問題の 解決を含む最終的な戦後処理の文書であるべきこと」を確認
		12月21日	ソビエト連邦解体、ロシアなど11カ国首脳が調印して独立国家共同体を創設
1992年	平成4年	2月	日本、ロシア両国外務省が「日露間領土問題の歴史に関する共同作成資料集」を行刊

### 3、樺太豊原盲啞学校の歴史について

#### ◆北海道のろう学校の歴史

1902年	明治35年	函館の私立函館訓盲院に「亜生部」を開設
1905年	明治38年	小樽の私塾「盲啞者私塾」開設
1922年	大正11年	旭川の「私立旭川盲啞学校」開校
1925年	大正14年	札幌の「北海道吃音矯正学院」開校
1928年	昭和 3年	室蘭の「私立八雲聾啞学院」開校
1937年	昭和12年	帯広の「私立帯広盲啞院」開校

樺太盲啞学校→ いつ開校・廃校になったかはまだ不明。（調査中）

専科、初等科、中学科、研究科4つの学部があった。

昭和14年時点：全員で22名→写真

昭和17年時点：全員で25名

樺太盲啞学校は口話主義だった。（聾啞の光より）

#### ◆実際に樺太豊原盲啞学校に在学した人の体験話

（村川健雄さんへのインタビュー）

現在小樽市居住。昭和7年樺太豊原生まれ、現在67歳。樺太豊原盲啞学校に在学した経験がある。

昭和19年に「ソ連が樺太に侵攻する」という情報が入った為北海道に逃げた。

（平沼正一郎さんへのインタビュー）

大正15年（昭和元年）生まれ、現在74歳。

樺太豊原盲啞学校入学→12歳の時（昭和12年）授業料、教育費は全て自費。

樺太豊原盲啞学校廃校の原因→太田勝馬校長先生が収賄したのが大きな原因となった。

昭和22年日本に帰国。（敗戦後の2年間はソ連領の樺太にいた。）

来年の1月に樺太豊原盲啞学校で実際に教えていた泉あい先生（健聴）にインタビューする予定です。

### 4、最後に。。。

今年はいくまでも中間報告という形で来年度の日本聾史学会には樺太豊原盲啞学校の歴史について具体的に詳述していけるよう努力していきたいと思っておりますのでどうぞそ宜しくお願い致します。